いはらき

アイちゃん

保育通信

No. 108

茨城県保育協議会／茨城県民間保育協議会／茨城県社会福祉協議会

目　　次

県　保　協

特集　座談会　― 保育を語る… ―

新人保育士編　PART Ⅰ …… 1

ブロック活動報告…… 4

平成26年度研修会…… 7

老舗保育園紹介……14

新設保育園紹介……16

みんなの広場……18

茨城県保育協議会ホームページ　http://www.hokyo-ibaraki.jp/

〈表紙カット　　元三和保育園職員　　猪　瀬　愛　子〉

特集 座談会

保育を語る…

PART I

新人保育士編

前回は福祉の現場で活躍されている栄養士、看護師の特集を掲載しました。今回は新人保育士編として、新採用あるいは採用して２～３年目のフレッシュな方々にお集まりいただき、それぞれの思いを語っていただきました。その様子を３号に渡り掲載いたします。

プロフィール

① ブロック名
② 保育所(園)名
③ 生年月日
④ 経験年数
⑤ 保育所(園)紹介

鈴木（すずき）　千尋（ちひろ） 先生

①いなほブロック
②鉾田市立第二保育所
③1991年９月12日
④３年目
⑤市のほぼ中央にあり、周囲は田園の自然環境に恵まれたところです。年長児は近隣の保育所や幼稚園と交流を図っています。

山本（やまもと）　瑞希（みずき） 先生

①取手ブロック
②社会福祉法人 取手保育園
③平成３年10月９日
④３年目
⑤緑豊かな自然の中で「明るく､正しく､仲良く」を基盤に、集団の中で園児一人一人が健やかに育つよう保育をしています。子育て支援事業にも取り組んでおり、隣接されている幼稚園とも行事等で交流を持っています。

村田（むらた）　沙也香（さやか） 先生

①県央ブロック
②社会福祉法人 ミーム保育園
③平成５年11月23日
④１年目
⑤地域行事や伝統行事を多く取り入れ、保護者の方とも協力し、大きな行事を盛り上げています。はだし保育を取り入れ、つちふまずの形成を促したり、ハーモニカや布おむつ等も保育に取り入れています。

加藤木（かとうぎ）　貴之（たかゆき） 先生

①水戸ブロック
②河和田保育所
③1985年２月14日
④水戸採用２年目（他の保育所で５年経験有）
⑤住宅や田畑に囲まれ、地域や自然環境に恵まれています。広い庭と明るい保育室で、異年齢との交流を大切にしながら保育をすすめています。職員間の連携や学び合いも大切にしています。

司会　みなさんこんにちは。今回は保育の現場で働く新人保育士の先生方からざっくばらんにお話を聞かせていただきたいと思います。それでは自己紹介からお願いします。

加藤木　水戸市の河和田保育所から来ました加藤木です。採用二年目で、その前に五年ほど民間で臨職をしていました。男性保育士なので体を使って子どもたちと遊んでいきたいです。

村田　県央ブロック小美玉市のミーム保育園から来ました村田です。短大を卒業して一年目で三歳児を担当しています。元気が取り柄で子どもたちと楽しく遊んで保育しています。

鈴木　鉾田市の鉾田市立第二保育所から来ました五歳児担当の鈴木です。経験年数は今年で三年目です。高萩市出身で鉾田市に来て、虫も多く、自然の中で子どもたちと触れ合いながら毎日楽しく保育しています。

山本　取手市の取手保育園から来ました山本です。今年で三年目です。四歳児を担当しています。自然豊かな環境で子どもたちと触れ合いながら、ピアノが得意なので歌を歌ったり楽しく保育しています。

司会　皆さん生き生きと話をされて、とても気持ちが良いです。それでは座談会に入っていきたいと思います。まず、仕事をしていくうえでのギャップというか、実習の時とどう違いますか。

山本　学生の頃と違って責任の重さを感じます。ケガ一つとっても責任が重いと感じます。

鈴木　最悪の状況にならないように、特に震災の時の様子を聞いたりして、どうするのが一番いいのかを常に考えています。学生の頃はそんな考えはなかったです。

村田　学生の時は子どもとどれだけ多く関わるか、積極的に関わることを意識していましたが、書類整理やお手紙などを通じて、そういったことも子どものためになっているという思いを強く感じました。

司会　そうですね。目に見えない部分が保育に影響してきますものね。目に見えない部分で、いかに配慮するかで保育に影響してきますね。

加藤木　実習の時は、自分の仕事をどうやっていくかで精一杯でしたが、今では他の先生との連携や、嘱託の先生への配慮など、一緒に働く人たちとの連携や配慮を意識しています。

司会　保護者への対応などで悩んだとき、たとえば子どもがケンカをしたときのフォローなどはどのようになさっていますか。

村田　片方の子が圧倒的に悪かったとしても、悪いことをしたことで泣いてしまう子もいます。「謝ることが出来たね。今度からは気を付けようね」と、気持ちを前向きに持てるような対応をしています。

加藤木　片方が悪くてもスキンシップに心掛けて、子どもが気付いて戻ることが出来る場所になるよう配慮しています。複数担任なので、気持ちの切り替えが出来るように、もう一人の担任にお願いして子どもの話を聞くようにしています。それでも対応に困った時は、先輩に相談するようにしています。

鈴木　五歳児の場合、「やっちゃった」という顔をする子もいます。悪かったと思っているならば、気持ちを出せるように、その子から自然と言葉が出るよう促しています。複数担任なので、当事者には他の部屋など、じっくりと話が出来る環境で話

をするようにしています。
　また、繰り返してトラブルを起こしてしまう子に対しても、前回よりも少しでもいい関わりができたことに対しては、見落とさないように心掛けています。

山本　四歳児の場合、今一つ判っていない子もいます。自分が話に入ってどういう経緯があったのか、よく聞くようにしています。「ごめん」という言葉が出たときには、褒めて次に繋げていくようにしています。

司会　何回言ってもわからない、毎回注意はつらい。その子とどう関わったらよいのかという事ですね。
　仕事の上で、一番相談にのってくれるのは誰ですか。

山本　主任や先輩の先生方の意見を聞くようにしています。

司会　一人で抱えずに他に相談することが出来ていれば安心ですね。保護者対応など、難しいことも多いと思います。十人いれば十人の意見があり、みんな違ってくると思いますが、どのように対応されていますか。

村田　特にトラブルはないですね。

加藤木　男性なので相手との距離感を大事にしています。

鈴木　私の場合は、出産・子育てを経験していないので、言葉かけ一つとっても、先輩からの「大変ですね」と、私の「大変ですね」とでは、違いがあるのではないかと感じます。

司会　心が込もっている「大変ですね」は大丈夫ですよ。気持ちは伝わっていると思います。
　他の保育園や幼稚園などで働いている友達と情報交換などしていますか。

全員　（うなずく）

司会　職場の人間関係などで悩んだときには、どなたに相談していますか。

加藤木　昨年組んでいた先生や主任など、話を聞いてもらえる人はたくさんいます。今のところ大きな悩みはありません。

村田　今の保育園は、実習に行った園であり、いい雰囲気です。いつも気にかけてもらっていて、みんなから声をかけてもらっています。

鈴木　皆から「大丈夫？」と声をかけてもらっています。年長組ということで、いろいろ体験させなくちゃならないことがあります。

山本　職場環境も良く、はじめての一人担任なのですが、気にかけてもらっているので安心して保育にあたれます。

✲ 広報委員から ✲

　会場に入ってきた時から、もぎたてのフルーツのようなフレッシュな香りと共に、ちょっと緊張した面持ちながらも笑顔で参加してくれた四人の方々でした。
　さすがは園長先生お墨付きの新人さん達で、素直なお話を聞くことができました。

ブロック活動報告

いしおかブロック保育協議会

会長　鈴木敏夫（霞ヶ浦保育園）

いしおかブロックは、石岡市・かすみがうら市の二市で構成されています。

公立九施設、民間十四施設で、会員三百十五名のブロックです。

昨年度の事業内容について報告させて頂きます。

一、総会の開催と講演会

講演会は、「国における子ども、子育て会議の現状について」と題して、社会福祉法人清隆厚生会野木保育園理事長であり、また内閣府「子ども・子育て会議委員」であります坂崎隆浩先生をお迎えして実施致しました。

二、主任保育士

保育士の質の向上を図りながら、保護者とのより良い関係作りを目指しています。保護者との関わり方や、支援のあり方を探り、子ども、保護者、保育士が共に育ちあうための主任保育士としての関わり方や役割を学びあうため、保護者への支援「保護者への信頼関係を築くために」をテーマとして研究活動を行っております。

三、保育研究会

保育研究会のテーマは「幼児の身体能力をのばすために」。流通経済大学スポーツ健康科学部の柴田先生の助言を頂きながら年間十回の研究会を開催し研究活動を進めております。

四、保育士研修会

親子ふれあい遊び、運動遊び、身近なもので作って遊べるおもちゃ、など保育に役立つ遊戯講習会を行いました。

五、調理員研修会

今回は、「アレルギー児の対応、食物アレルギーの代替食」を重点に研修を行い調理員の質の向上と技術の向上に努めました。

六、施設長及び全体研修

施設長視察研修は、東日本大震災で大きな被害を受けた潮来市の日の出保育園を視察し塙理事長より当時の現状をお聞きしました。

震災の恐ろしさを改めて知った研修でした。

また主任保育士視察研修においては、認定こども園について勉強いたしました。

今後も会員の資質の向上と親睦を目的とし保育所（園）が切磋琢磨しながら地域のニーズに応えられるよう、より一層ブロック活動を充実させていきたいと思います。

常総ブロック保育協議会

会長　山内清視（大宝保育園）

常総ブロックは、下妻市内六施設。常総市十一施設・八千代町五施設の計二十二施設から成っています。

様々な国の政策で揺れ動いていますが、各園のみならず、ブロック全体の質を向上させるという基本がぶれないように意識して事業を計画しています。

昨年は、まずトップの施設長から意識を高めようと、新宿せいが保育園長藤森平司先生より「園長としての役割・リーダーシップについて」のお話を伺いました。折角の機会なので、お隣の県西ブロックにも声をかけたところ、多数参加して頂けました。思いがけず親睦にも繋がりました。ちなみに今年度は、「坂東太郎」社長の講演会を実施し、秋には経営者の為のＤＶＤ上映会を、青年会議所やロータリークラブのメンバーに声をかけて行う予定です。

又、年一回の給食従事者研修会は、築地・浅草方面での食体験をしてきました。今年度は日本料理がユネスコ無形文化遺産になったこともあり、日本料理のシェフを招いての実技研修というように変化を持たせるようにしています。

全体の職員研修会ですが、一昨年

〈講師の佐野有美さん〉

特別支援学校教諭山元加津子さんの講演会をしたのですが、その際に脳幹出血で寝たきりになってしまった同僚の〝宮プー〟の紹介がありました。その宮プーが奇跡的に回復して意識を取り戻し、支えられながら立つまでの様子を、ドキュメンタリーにした映画ができたので、その上映会「僕のうしろに道はできる」をオカリナとギターアンサンブルのミニコンサートも添えて実施しました。

二回目の職員研修では、生まれつき手足の欠損というハンデを乗り越えて講演のみならず歌手活動で全国を駆け回っている、佐野有美（さのあみ）さんの「あきらめない心」と題した講演会を実施しました。早朝からの雪模様の為、講演会が実施できるか否か危ぶまれましたが、笑いと涙溢れる感動のひとときを過ごすことができました。このような費用の掛かる講演会ができるのも、県からの補助金を戴けるからこそと、改めて感謝しております。

今後も子ども達が生き生きと過ごせるためには、職員一人一人が笑顔を絶やさないで前向きにいかなければならないと思います。研修会で意識を高めながら、職員同士の親睦も深められたらいいと思っています。

いなほブロック保育協議会

会長　塙　信一（日の出保育園）

いなほブロックは潮来市、行方市、鉾田市の三市で構成されています。

施設数は公立三、認定こども園三、私立十九の二十五施設で、会員数五〇七名、入所定員一九九〇名のブロックです。

去る四月十八日の定期総会に於いて事業計画及び予算（案）が承認されました。

施設長部会では施設長と主任保育士とが共通認識を持ち保育に携わることを目的とし七月に脇貴志先生を迎え「保育園の危機管理」についての講演会を、又、研修視察については先進的な保育又は園を学ぶと共に施設間の更なる意志疎通を目的とし宿泊研修を行う予定です。又、職員間の親睦を目的としたソフトバレーボール大会を十月に行います。来年一月にはいなほブロック「保育を高める日の研究集会」を開催し永年勤続者表彰と講演会を行う予定です。

保育士部会は主任保育士会議が年二回と研修会七回の開催を予定。又保育研究会では「食の力を育む」～みんなで食事を楽しもう～のテーマで、平成二十七年のまとめに向かい活動しています。すでに終えた事業として、保育士部会では四月平多公子先生による運動会用遊戯講習会、六月杉山美智子先生による給食研修会。おなじく六月には稲川せつ子先生による「保育ですぐ使えるマジック」講習会を行いました。今後も救急法、研修会、講習会等を予定しています。

ブロックとして計画されている事業を推進し保育に携わる方々との意志疎通を図りながら保育の質の向上に努めていきたいと考えています。子ども達の笑顔が永遠に続くことを願いながら……。

〈いなほブロックの施設長会〉

〈マジック講習会にて〉

平成二十六年度研修会

新任研修会に参加して

水郡ブロック
だいご保育園
保育士　齋藤智美

新任研修会に参加して数ヶ月が過ぎました。研修会では社会人としてのマナーから実際に保育で活用できる技術まで、様々なことを学び、四月から保育士として働いてきました。研修に参加して良かった、役に立ったと思うことが多くありました。また、自分の社会人としての自覚の足りなさを実感した研修会となりました。

相手と話すときの目の合わせ方や来客時のお茶の入れ方など、普段は気にかけていなかったような細かいマナーから、保護者との登降園時のコミュニケーションのとり方や電話対応を一から教えていただき、保育士になると同時に一人の社会人になるという自覚を持つことができました。

その中でも特に今の自分に必要だと思ったことは、『メモをとる』ということです。自分の中で当たり前だと思っていましたが、働いてきて改めて大切なことだと認識しました。

保育士になり約三ヶ月が経ちました。保育園生活に少しづつ慣れてきましたが、今でも毎日が勉強と発見で学ぶことが沢山あります。

周りの先生方からいただくアドバイスはいつも的確で、その都度メモに書き記すことで自分の保育を見直すきっかけになり、次につなげることができています。自分が主として活動するときは特に、反省と改善を繰り返すことでスキルアップできると感じています。

それだけでなく、子どもたちの小さな成長も一つひとつ文字に残すことで自分の知識になり、後々に見返したとき子どもたちの成長の流れが見られると思います。

時にはメモに頼らず、頭の中に残しておくことも大切ですが、自分で文字にすることで自然に記憶として残ると思います。日常の保育での留意点、目上の人との関わり方、保護者との接し方など、自分が過去に失敗してしまったことは、その時にいただいたアドバイスと共にメモに書き残してあります。

これからまだまだ初めての行事や経験することがあり、その度に新たに学ぶことや新しい発見があると思います。メモをとることを習慣づけていき、記憶としてだけでなく形としても残していきたいです。

私はまだ未熟な保育士ですが、日々自分の保育の向上に努めていきたいと思います。その為にも、積極的に研修に参加したり、周りの先生方からのご指導を謙虚な気持ちで受けていきたいと思います。

〈念願叶って笑顔の毎日〉

第五十五回関東ブロック保育研究大会

県北ブロック
日立市かみちょう保育園
園長　内田敬子

「二十六年度の関東ブロック保育研究大会で公立保育所の発表がありますよ」と研修委員長から聞き、発表に向けた取組みが始まりました。

茨城県は、公立委員会として保育の質の向上のための研修会や実態把握等の活動をしているため、他県にはないこの特徴を生かし二十一年度・二十四年度と同様に公立委員会として発表することにしました。とはいえ、公立委員も二年・ブロックの状況によっては一年で交代するため、委員長である私も今までの活動内容を十分把握しているとは言い難く、まずは委員の中から研究メンバーを選出し、今までやってきた活動について経験者から話を聞くことから研究を始めました。

第八分科会のテーマは、「公立保育所の使命と地域社会での役割」で、私たちは今までの継続研修を基にサブテーマを『地域の子育て支援と地域の中での多様な連携を考える』とし、五十歳代・四十歳代・所長と三

つの研修で取組みました。さらにアンケート調査からの考察や実践事例も加え発表しました。

職員の質の向上に向けた研修は、他の地域の発表にも共通しており、保護者支援や地域の子育て支援・関係機関や地域の中での連携においての基礎となるものであることを再確認しました。また保育行政機関として地域のニーズや実情に合わせて取組んでいる事例を聞き、今の自分にできることは何かと改めて考える機会となりました。

講師の先生からは、五十歳代の保育士にスポットを当てて保育の維持・向上に向けて研修を開始・継続してきたこと、東海村立百塚保育所と水戸市立杉山保育所の実践について評価をしていただきました。百塚保育所の実践の中の一つは、研究メンバーでこんな活動ができたらいいねと話し合い、所長研修の講義の内容とも合致し、所長と職員ですぐに実践に取り組んだ事例でしたので、うれしさと共にその行動力には頭の下がる思いです。

最後に、地域全体の保育の質の向上の重要性を認識し、公立委員会主催の研修を継続して行ってきた行動力のある先輩方、発表に向け話し合いや実践に取り組んだ研究メンバーの方々、研究発表という貴重な機会をいただいたことに感謝いたします。

〈会場にて　内田先生〉

水戸ブロック
水戸市立一の牧保育所
所長　**加藤木　久　子**

台風8号接近中の中、山梨県で開催された大会に参加をし、大会運営の方々には細やかな心配りをしていただき、感謝申し上げます。

一日目は厚生労働省から「子ども子育て支援新制度について」の行政説明と、読売新聞社社会保障部次長による「人口減少時代における子育て支援と保育」の基調講演が行われました。行政説明では現行制度と新たな制度の違いなどの説明が詳しくありました。続いて基調講演では、新聞記者の視点から過去のデーターの分析や少子化対策における世界との比較など、これからの社会とどう向き合っていくか、普遍的な子育て支援をしていく社会の構築をする重要性を知る事ができました。

二日目の分科会では、第一分科会「新たな時代の保育、実践～すべての子どもに向けて～」のテーマのもと研究発表が行われました。その中で、平成十八年からの継続研究発表があり、数年かけて「楽しく身体を動かす遊びの実践を」の積み重ねてきた日々の保育の大切さと共に、継続するという事の大事さを学び、参考となりました。

すべての子どもたちに、一人ひとりの子どもの育ちに応じた質の高い保育の提供とやがて大人になる小さな人を育てていくという保育士の使命を改めて感じ、これからの保育に心がけていきたいと思いました。それと共に、これからの人材育成、保育士を育てる必要性を強く感じた分科会でした。

また、助言者の先生の言葉の中で、研究報告の仕方はここ数年充実し、変わってきていても、保育所の保育は「養護と教育が一体化」に展開され今も昔も変わらずに、その趣旨は揺らぐ事なく、長く保育所保育の基本として受け継がれている。どんなに情勢が変わろうとも、すべての子ども達に向けて受け継がれてきた事を、大切にし保育の質の向上に繋げて欲しいという言葉が、特に印象に残りました。

この保育研究大会で学ばせて頂いた多くの事を、今後の保育にいかし保育をめぐる動きが、どのように変わろうとも、保護者と共に、保護者に寄り添い、子どもの笑顔と幸せを願い、保育を行っていける様に努めてまいりたいと思います。

最後に、参加の機会を与えていただき、ありがとうございました。

〈子どもたちと一緒に〉

老舗保育園からのメッセージ

時代をつなぐ

今回から新設保育園紹介に加え、老舗といわれる概ね昭和30～40年代に開園し現在に至る園を紹介していきます。

いつまでも継承される保育園に

つくばブロック
社会福祉法人
かつらぎ保育園
園長　舘野　清子

かつらぎ保育園は、昭和二十八年四月一日、宗教法人安福寺本堂にて無認可保育施設として開設いたしました。今年で六十二年にもなる歴史ある保育園です。

終戦直後は、いずこも同じ開墾と食糧増産に懸命で、手不足の家や祖父母のいない家では子どもを畑へ連れ土の上を這い、草刈り籠に入れたり、見るも哀れな姿で仕事も思うようにできませんでした。先代の理事長は、そのような姿を見ていて「子どもを預かり託児所をつくって両親が安心して働ける保育をしたい」と考えたのが保育園開設の因となって決意したそうです。しかし無一文の個人が前途多難を予想し、安福寺所有の山林の太い立て松を建築の材料として使わせて頂けるよう関係者の方々に相談して伐採の実施となり、毎日自ら山仕事へ出かけ、あまりにも重い生木に眼から火の出る程の重労働を続け、園舎建設に至りました。

又、現在九十四才になる園歌の作詞者でもある義母は、資格取得にあたり三児の母であり、水戸へ予備講習に通い、昼は助手として現場での勉強と、家事一切の仕事で試験勉強の時間は早朝の短時間しかないという苦労をしながらの資格取得でした。

五部だけの紙芝居を毎日演じ方を変えて飽きさせないように読み聞かせ、朝のお誓い「今日も一日お怪我のないように、元気で仲良くお遊びできますように…」と本尊様に向っての合掌の言葉は今でも六十二年間続けられております。

昭和五十七年三月三十一日に宗教法人から社会福祉法人に、旧園舎から新園舎へ改築し、私と現在の理事長が引き継ぎました。定員も昭和三十八年七十六名、昭和五十八年九十名、平成四年一二〇名、平成十一年一五〇名、平成十六年一八〇名と増えてきて、二五八九人の卒園生を送り出し、親子三代で保育園に通ってきてくれている家庭も過半数を占めています。

「よい子はなかよく」と植えつけられた気持ち、保育者は広大無辺の慈心が大切で、当時の岩上知事が書き贈って下さった「始海」は慈心海の如し、博愛海の如しと母親（保育者）の尊い使命感が秘められているそうです。その使命感達成に努力してまいりました。二十五年前に当時の保護者会会長さんに言われた「かつらぎ保育園は地域の誇りです」という言葉に支えられながら、一番身近に感じ、受けとることのできる仏様の導きは、ひょっとしたら子ども達なのかもしれません。何度子ども達の笑顔、声、姿に励まされ勇気づけられたことでしょう。

地域の福祉に貢献、社会福祉事業に熱心な施設ということで、平成十四年一月、つくば市長より表彰、平成二十三年十二月、天皇陛下から金一封が下賜されました事は、この上ない栄誉と喜びでいっぱいでした。地域の子ども全員が幸せになる、そのための保育者集団はとても重要で

す。時代や地域によって保育の役割は変わります。「時代性」を把握することが大事です。これは我が園がその地域に存在する意味を問い直す作業でもあります。「子どもの育ち」という欠かせない視点を大切にして、子どもの育ちにとってふさわしい環境を保育に関わる人達皆で考えていく必要があります。

平成二十七年度より子育てを支援する新しい制度がいよいよスタートする予定になっています。制度はどう変わろうと、ほとけの子を育てる理念は不変です。

「ほほえみは、ほほえみを呼ぶ」と言います。お互いがすてきな気持ちや行いを呼び合う、そんな保育現場でありたいと願いながら、人や地域のために奉仕していきたいと思っています。今、子ども達や保護者から自分が何を求められているのか、自分に何ができるのかを常に意識しながら、ずっと続けていきたい仕事だと思っています。

〈栄誉の受賞〉

育て!!　地域と共に

鹿嶋・神栖ブロック
社会福祉法人
大野めぐみ保育園
副園長　**中　西　三千子**

「先生、お久しぶりです。変わりないですね」三十年前に担任した子の母親（今ではおばあちゃん）からかけられた一言、変わってない筈はないのですが、雰囲気がということでしょう。担任した子の子どもを次の世代が担任し、三代目の子どもたちが登園してくる保育園となりました。時代の流れと共に人も次の代に移り、また出会えるご縁にありがたさを感じます。

開園して五十七年目、第一期生は六十二歳となり、卒園生は二千八百名を超しました。昭和三十三年季節保育所としてお寺の檀家さんの子どもを預かった幼児園、親が働いていようといまいと地域の子どもたちがみんな通い、お天道さまと共に開かれていました。竹で作った滑り台、海で貝殻を拾って数遊び、水戸まで買いに行ったおやつ、冬の夕暮れは焚火や焼き芋で身も心もほかほかに暖めて帰りました。

〈園舎の前にて〉

時代が変わっても、変わらず大切にしている一つは保育信条です。理事長ご夫妻が、「ありがとうございます・ごめんなさいを素直に言えるこどもに」と掲げて、今ではすっかり卒園生や保護者にも浸透しています。

二つ目は地域の方々との関わりです。軽トラいっぱいの花苗・出荷後の畑の野菜収穫・七夕の笹・季節のメロンや野菜・駐車場の草刈など地域の人に支えられて感謝一杯の豊かな保育が展開できます。また、小学校・中学校・高校との交流、敬老会や老人ホームでのお年寄りとの交流、子育て支援での関係機関との連携、保育園での子育て講演会には二百六十名の方が参加してくれるようになりました。

今、保育の社会化といわれる時代の中で地域と密接な関わりを持ち、保育園が地域の社会資源となり得るように努力し、自然環境・園に通う園児や保護者・地域の人々との出会いを大切にして、「大野めぐみ保育園に入園してよかった」と安心して通っていただける保育園作りを職員一同目指していきたいと思います。

〈広々とした園庭で遊ぶ子ども達〉

新設保育園紹介

よろしくおねがいしま〜す

大切にしたいことを探しつづけて

鹿嶋・神栖ブロック
社会福祉法人
美空野保育園
園長　山下佳子

鹿嶋は、とてもいいところです。鹿島神宮から続く緑がちりばめられ、鹿島灘からは、碧い水の勢いと、風にのってくる潮の香りを、暮らしている私たちに、与えてくれています。

二十三年前…無認可保育園「プー横丁」を出発させて、たくさんの子どもたちや、保護者の方との出逢いがあり、私にとっては、自分育ちの「場」でした。無認可は、経済的にかなり厳しいものがありましたが、保護者の方たちと一緒に悩んだり、笑ったり、遊んだり…育ち合うということが、作ることのできた魔法のような「場」でした。

卒園していった子どもたちが、今でも、立ち寄ってくれて保育園の子どもたちと遊んでいってくれます。「ここへくれば、きっと居てくれるって思うんだよ」と、尋ねて来てくれます。

そんな無認可から、認可へと、移り変わることになったのは、「存続を考えると、今の状況のままでは無理だろう」と考え、決断しました。

法人の立ち上げ、認可への道のりは、山あり谷あり水たまりあり?忙しかったり、わからないことの連続でめまぐるしい時間をたくさん過ごしましたが、周りの暖かい力で「美空野保育園」を誕生させて頂けることになりました。

「美空野」は、「みその」と読みます。名前は、大きな地震のあと、様々な環境の変化に、あ然とし、鹿島のすばらしい環境は、なんとしても次の世代へ残す努力を私たち大人が、やらなければ…と胸に忘れないようにと、「美しい空と野原」を子ども達へ…と「美空野」としました。

自然は、ありのままの姿で私たちに存在を与えてくれます。私たちは与えられたことに「肯定」の気持ちで受け入れ日々過ごしていて、雨の日を無理矢理、晴れにしようとは、思いません。

晴れなら晴れ。雨なら雨。雪の日は雪。

「保育」と通じるところがあるなあと感じています。

大切なことは、普遍性なものと、変化していくものの中にあると思っています。

常に追い求めていく、そんな保育

〈グリとグラがお出迎え〉

園をめざしています。
　平成二十五年十月。うまれたばかりの保育園。定員二十名。0才～五才。学童保育もあります。
「大好きだよ」「生きていこうね」と、抱きしめる保育、大人も子どもも「育てて」「育てられる」関係を大切にして今日もゆっくり歩いています。
　どうぞ、よろしくお願いします。

水戸ブロック
社会福祉法人
堀あさひこども園
園長　川津光子

　水戸市の中心部から北西に七キロほどの自然豊かな場所に平成二十六年二月に堀あさひこども園は開園いたしました。
　緑の森を背に深いグリーンの屋根と樹木の幹を思わせる壁と白い縁どりの瀟洒（しょうしゃ）な園舎。その落ち着いた外観からは想像できな夢いっぱいの園舎の中に、いつも訪れる方は驚きにも似た表情を見せています。
　園舎の中央に位置する「あさひの森」（多目的ホール）で子ども達を見守ってくれるふくろうの「じゅんさん」始め、「あさひの森」の住人たちはすべて堀あさひこども園オリジナルです。昼間は「あさひの森」に隠れている動物達も子ども達が帰った後、ワイワイ、ガヤガヤやってくる…そんな楽しいお話に子ども達は想像を膨らませ明日への期待で胸いっぱいになります。
　本園を開園するにあたりたくさんの地域の方のご協力を頂いたこともあり、いつも園には温かい地域の方の眼差しが注がれています。
　子ども達に食べさせたいと袋いっぱいの人参を頂いたり、じゃが芋堀を経験させたいと丹精込めた畑に招待してくださったり。散歩に出かける0歳児に声を掛けるのを楽しみにして待っていて下さる方がいたりと徐々に地域の方との交流も増えています。
　また、本園は学校法人あさひ学園あさひ幼稚園と姉妹園ということもあり、四十数年の歴史で培った幼児教育の成果を本園でも踏襲していければと考えております。
　そして水戸市内の保育園では初めてとなる病後児保育にも取り組んでいます。看護師三人体制で、子どもを守るだけでなく保護者支援も念頭に運営していきたいと思います。
　街の喧騒から離れ、ゆったりと時間が流れていく緑豊かな自然環境を活かしながら、愛情・真心・笑顔で心身ともに健康な子どもを育て、保護者から信頼され、地域に愛される保育園を目指していきたいと思います。

〈園舎全景〉

〈たくさん獲れたよ〉

みんなの広場

会員の皆様からお寄せいただいたコーナーです。

自然体験ができる喜び

県北ブロック
あおぞら保育園
園長　大平明美

本園が立地している高萩市は、海あり、山あり、川ありと豊かな自然に恵まれています。今年で設立三十四年目になりますが、一貫して自然の中での活動を大事にしてきました。平成十六年には、本園より七・八kmのところに山を借り、園児でも登れるような山登りのコースをいくつもつくり、日々の保育の一環として何回も登りました。

〈ターザンになった気分〉

ログハウスも建て、五右衛門風呂もつくり、宿泊保育も楽しみました。夜空にきらめく星を眺めながらの入浴、友達と一つの釜に入る楽しさは、いつまでも子ども達の心に残ります。山の斜面を利用してのそり滑りや、高い木の枝から垂らしたロープにまたがってのターザン遊びは、子どもたちに大人気です。何回も繰り返し遊ぶことで、足、腰、腕の力もついていきました。

山のすぐ近くには「関根前川」というとてもきれいな川が流れています。浅い川なので、二歳児でも安心して遊べます。六月には、カエルの卵を持ち帰り、毎日興味深く観察し、カエルになったら川に帰しに行きました。学童さんがペットボトルで「いかだ」を作ってくれ、乗って遊んだこともあります。年長になると、川の流れに逆らって、一km位歩いたりもします。川で泳ぐ子もいます。夏の暑い日には、最高の遊び場です。

こんな素敵な遊び場が、三年前の大震災で使えなくなってしまいました。放射線量が基準値を超えていたからです。山なので、表面を削り取ることはできません。保護者の協力も得て何回も落ち葉掃き等の除染作業をしました。三年たってやっと放射線量の値が基準値以下になり、去年の秋は、真っ赤な紅葉を見に行くことができました。

今年の夏は川遊びができそうです。震災があったことで、自然の中で五感を十分に働かせて遊ぶことが子ども達の心と身体の発達にいかに大切なことであるか実感しました。

まだ、震災前のような活動がすべてできるようになったわけではありませんが、できることを探りながら、子ども達の成長・発達のために保育していきたいと思います。

年長児の情操教育を考えて

筑西ブロック
たけのこ保育園
園長　尾見純子

「おはようございます。」
「よろしくお願いします。」

長座テーブルに正座し、姿勢を正しくして真剣な眼差しで挨拶を交わすのは、年長児そら組のお友達です。

お習字の時間が始まります。

「今日書く字は〝い〟です。どんな言葉があるかな。」

「いぬ、いす、いえ、いか、いけ…」

「そうね、たくさんあるね。〝い〟という字は、お手手を向かい合わせて、やさしい気持ちになる字です。

みんなも形を作って見て下さい。」
　硯に水を入れ手を添えて静かに墨をすります。墨がすれたら硯をはしに動かし、下敷きを出し、文鎮を添え大筆小筆の用意をします。紙が配られるのを待ち、園長先生が書いたお手本を見てあわてずゆっくりと落ちついて書き始めます。静寂な時間が過ぎて行きます。書いた文字は、朱墨で大きなお丸をもらって、その日のうちに廊下に張り出されます。赤いお丸はとっても嬉しくて、子ども達の自信へと繋がって行きます。
　思い起こせば三年前の東日本大震災の時、余震を配慮してバスを使うすべての行事は園として中止となってしまいました。年長児の思い出作りのはずの楽しい行事すべてをなくした子ども達はとても淋しい表情でした。

〈とても上手に書けたね〉

　その時、何か園で子ども達のためにできることはないか一生懸命に考えました。そして、園長が幼い頃から学んでいた大好きな「お習字」を情操教育の一環として年長児に指導することを思いつきました。
　実際に園長が座テーブルに正座し、墨をすり半紙に文字を書いている姿を年長児に見せると「楽しそう」「やって見たい」という言葉、その言葉に後押しされて、書きやすい文字から、言葉遊びを通して月二回お習字をする事に決めて今日に至っております。
　お習字の時は、口をむすんで、墨の香りだけが部屋に漂い、いつもの保育室とは違った部屋になります。
　今はほとんど目にすることも、ふれることもなくなってしまった「お習字」を就学前の情操教育に取り入れたことで、毎日の園生活の中で少しづつ「動」と「静」の区別がついてきた様に感じられます。
　子ども達の笑顔と、一生懸命さと、誇らしげな表情が続く間は、そして園長の体が続く限りは、続けて行きたいと思っています。
　心豊かに、たくましく生きる、子ども達のために……

五感で感じる事

水戸ブロック
社会福祉法人
ちゃいるどはうす保育園
副園長　**根　本　華　誉**

　乳幼児期、自分自身の身体を使い、五感を通した多様な体験はその後の発達を考える上で重要な働きがあります。そしてその体験は人間形成の土台になって次の発達段階に繋がっていきます。
　生まれながらに備わっている『自分自身を育てていく』という子どもの大切なお仕事。それを成し遂げる為には環境が重要な鍵ともいえるでしょう。
　子ども達を取り巻くこの時代の環境は、昔と比べ身体で感じる事が少なくなっているようです。保育園という限られた中でその足りない部分を少しでも補う事が出来れば、そう思い、自然と触れあう時間を大切に考えています。
　『人間作り』その土台に根を伸ばし、しっかりしたものにするには五感を発達させ感性を豊かにする事が大切でしょう。
　雨の音や波紋、風のそよぎや土の匂い、味の違いを感じとり、水や泥、動植物に触れ、暗いトンネルくぐりに夢中になる、興味ある事に対し実際に身体を動かし人や自然と関わる体験が不可欠なのです。
　こうした体験の出来る環境に関わった子どもは自然観察が上手。土の中を想像し雲の上にまで思いをめぐらせてゆきます。自然に感動し受け止め、感覚器官を総動員した活動は豊かな発達には欠かせません。子どもが身体の隅々まで動かす機会を大人が保障する事が大事です。
　自分で感じた体験は自分を信じる心も育ち、自信につながります。
　急な築山の登り降りも「ここに力を掛ければ登れる」と自分で判断できるようになるのです。そしてやり切ったという自己肯定感が身につき、たとえ失敗しても「もう一度挑戦しよう」と思える精神が宿ります。

〈何かいる？〉

エコ活動への協力をお願いします

総務委員会では、引き続きペットボトルの回収を行っています。回収をする研修会は次の通りです。

（対象者）等…準ずる者含む　ほか…違う職種でも参加可能

期　　日	内容（対象者）　○会場	備　　考
10月20日㈪	**中堅保育士研修会**（中堅保育士等） ○茨城県総合福祉会館	★
12月10日㈬	**看護職員研修会**（看護職員ほか） ○茨城県総合福祉会館	★
1 月28日㈬	**主任保育士研究協議会**　1 日目（主任保育士等） ○ホテルレイクビュー水戸	★
29日㈭	**主任保育士研究協議会**　2 日目（主任保育士等） ○県民文化センター小ホール、分館	
2 月13日㈮	**保育研究発表会**（保育士ほか） ○県民文化センター小ホール	
3 月 9 日㈪	**施設長研究協議会**（所・園長等） ○ホテルレイクビュー水戸	★

備考に★のついている研修会でエコキャップを集めます。

※エコキャップ回収場所は、研修会受付とは別の場所です。

○茨城県総合福祉会館　　⇒裏玄関（大駐車場側）外の右手

○ホテルレイクビュー水戸⇒正面玄関の左手

回収時間は**研修会の受付時間**に同じ（時間を過ぎると回収車が出てしまいます）

～職員紹介～

・**鈴木　律子**さん

・**西野　沙織**さん

保育士人材確保支援事業として県庁子ども課に駐在しております。どうぞよろしくお願いします。

表紙の絵を飾る　猪瀬愛子さん　プロフィール

平成九年に絵手紙をはじめ、その後、倫理法人会と運命的な出会いをして活動の場を広げています。

また、東日本大震災後、被災地を励まそうと作品を贈ったり、イベントやフェスティバルに参加出展しています。

編　集　後　記

広報委員として初めて保育通信の編集に参加させていただきました。

今回は新設保育園の紹介と併せて、老舗保育園として、豊かな経験をお持ちの保育園から貴重な寄稿をいただくことができました。ご協力をいただいた方々に感謝申し上げます。

今後も皆様に愛される保育通信となりますよう頑張ってまいりますので、引き続き会員皆様のご協力をよろしくお願いいたします。　（K・S）

この保育通信は、共同募金分配金をうけて作成しています。　H26. 8 .31 発行

忙しくて、お家で練習できない先生方
一緒に練習しませんか？

高橋ピアノ教室

保育士の先生方に限り、月4回　5,000円（1レッスン 30分）

♫お待ちしてます𝄞

住所　鉾田市鉾田2243－2
TEL　0291－33－6221

安心・安全を守る！
驚異の美リフォーム

FRP・スチール・木造・ネットクライマー・プール等
遊具の素材、大小、年式を問わず復元修理いたします
※遊具点検士による無料点検付きです※

木製は特に、メンテナンスーつで
利用年数はガラリと変わります！

指を引っ掛けて転倒事故の原因に。
跳び箱の張替えもお任せ下さい！

塗料の剥がれや劣化による亀裂なども問題なし
新品同様のレベルまで『復元修理』いたします

どこよりも安く！
★ ☆ 無料見積り承り中 ☆ ★
㈱総合教育企画
☎0280-92-6119
茨城県古河市前林2008－3　fax0280-92-6102

サビは故障とケガの原因

ガラス繊維が出てませんか？ チェーンの制作もOK！

安全対策施工も行います

●こどものとも社は、次の世代をになうこどもとともに進む会社です。
●こどものとも社は、美しく楽しい絵本や童話の普及につくすことを信念としています。
●こどものとも社は、健全なこどもを育てるために、真に保育や教育に役立つ教材教具を厳選し、開発し、良心的に販売する会社です。

Kodomonotomo

(株)こどものとも

㈱こどものとも 茨城営業所
〒305-0074　茨城県つくば市高野台2-12-2
グリーンパレス高野台102
TEL：029-839-0014 FAX：029-839-0015
城東・千葉・群馬・埼玉・横浜・秋田営業所

毎号、綴込んで保存してください。

各職員に回覧してください。